

しぐさの違い



エッ日本じゃキスしない?!

一般にスペインもラテン・アメリカの人々もしぐさ(ジェスチャー)は、非常にあけっぴろげで、楽しく、ダイナミックのように見えます。友人同士が街やパーティなどで行き会々と、抱き合い、両頬にキスし、自分の気持ちや感情をストレートに表現しています。

話をしているときも同じです。みんな、顔を動かし、手を動かし、体を動かし、さまざまなジェスチャーを伴っています。スペインに何年か住んでいたある日本の女性作家が、この抱擁とキスについて次のように書いていました。

「スペインでは、遅れてパーティに駆けつけようものなら、そこにいるアミーゴ(友人)とキスをしまくらなければワインにもありつけない」

表現はやや大げさかもしれませんが、現地に住んでみると、彼女の言わんとすることがよくわかるような気がします。

これとは反対に、日本人のしぐさ、ジェスチャーは大変に小さく奥ゆかしいですね。道路や会合で知り合いに行き会々と、われわれの挨拶というのは、挨拶の言葉と一緒に頭を下げるだけです。もちろん、人によっては握手をすることもあります。でも、一般に年配の人はこうした習慣を持ち合わせていません。こういう人にとっては、人前で抱擁したりキスしたりするのは、はしたない、恥ずべきこと、慎むべきこと、といった感覚さえあるのです。これは、昔からの日本の伝統、しきたりから来たものでしょう。

でも、私には、体温のぬくもりが伝わる抱擁やキスの挨拶のほうが、二人の間に冷たい空間を置いた日本式の挨拶より、愛情と親密感が伝わるような気がします。

このしぐさについては、マラガ大学のクラスにいるとき面白い発言が飛び出しました。クラス仲間は十数人ですが、国籍も十を超えて多彩です。突然くしゃみが出そうになった。そのとき各国ではどうするか。スペインでは両手を口元に持っていく。もちろん、他人に飛ばないようにとの心遣いです。ところが、スウェーデンからの学生は言うんですね。「われわれは、すぐ腕の肩に近い部分を口元に持っていくよ。だって、手は他人と握手をする。相手に対して汚いではないか」と。

「ハクション」を活字にした表記も「アチス」とかいろいろです。くしゃみが出ると、たいがい、周りの誰かが「ヘスス」とか「サルー」といった声をかけます。

「お大事に」との意味ですが、仏教徒の自分には「ヘスス(イエス・キリストの意)よりも「サルー」と声をかけてもらったほうがいいような気がしたものでした。

抱擁とキスについては、そのやり方について、喧々諤々(けんけんがくがく)の意見が続出。「そういえば、男同士キスする国も結構あるじゃないか。よくテレビで政治家同士がやっているのを見るし・・・」

私が日本人の挨拶や習慣についての話を終わった後の彼らのとどめの質問(というよりも驚きの感嘆符)は、「ええ! じゃあ、日本では親子の間でもキスしないの?!」でした。

